

## 研修カリキュラム・シラバス

科目	細目	時間数					講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義		演習	実習	
			通信	通学			
1 職務の理解		(指導目標) 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。					
	(1) 多様なサービスの理解	3		3		0	◎介護保険によるサービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ◎介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3		0	◎各種サービスの内容や利用者などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ◎ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援		(指導目標) 介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	6	5	1			◎介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ◎介護に関する基本的な視点（ICF, QOL, ノーマライゼーション）について理解する。 ◎利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
	(2) 自立に向けた介護	3	2.5	0.5			◎介護における自立とは何かを学ぶ。 ◎「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ◎介護の予防の考え方について理解する。
3 介護の基本		(指導目標) 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。					
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1			◎介護環境の特徴（施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。 ◎介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。 ◎多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
	(2) 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5			◎介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。 ◎日本介護福祉士会倫理綱領を理解する。
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	0.75	0.75			◎利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ◎利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。
	(4) 介護職の安全	1.5	0.75	0.75			◎介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 ◎介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ。 ◎介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(指導目標) 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを修得する。						
	(1) 介護保険制度	4	3	1		◎介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ◎介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ◎介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。	
	(2) 医療との連携とリハビリテーション	2.5	2.25	0.25		◎介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ◎在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ◎リハビリテーションの理念と考え方について理解する。	
	(3) 障害福祉制度およびその他制度	2.5	2.25	0.25		◎障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みを踏まえて学ぶ。 ◎障害福祉制度制度の基本的なしくみについて理解する。	
5 介護におけるコミュニケーション技術	(指導目標) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限(とるべきでない)行動例を理解する。						
	(1) 介護におけるコミュニケーション	4	2	2		◎対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する ◎介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ◎事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	2	1	1		◎介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ◎チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ◎会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。	
6 老化の理解	(指導目標) 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。						
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5		◎老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差大きいことについて理解する。 ◎老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ◎多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。	
	(2) 高齢者と健康	3	1.5	1.5		◎高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾患から起こるかなど、その特徴について理解する。 ◎高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。	
7 認知症の理解	(指導目標) 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。						
	(1) 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5		◎「認知症を中心としたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ◎問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ◎できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1			◎老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ◎認知症に類似した症状をもつ疾患について学ぶ。 ◎アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1			◎認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ◎認知症の非との行動と環境との関係について理解する。◎病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。
	(4) 家族への支援	1	0.5	0.5			◎家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ◎家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
8	障害の理解	(指導目標) 障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。					
	(1) 障害の基礎的理解	1	0.5	0.5			◎「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。◎国際生活機能分類(ICF)に基づきながら、「障害」の概念について理解する。 ◎生涯福祉の基礎理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン)について理解する。
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5			◎障害の原因となる主な疾病を理解する。 ◎障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ◎障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5			◎家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ◎我が国に求められたレスパイトサービスの課題を学ぶ。
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(指導目標) 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を修得し、安全な介護サービスの提供方法等理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。					
	I 基本知識の学習						(10～13時間程度)
	(1) 介護の基本的な考え方	4	1	3			◎「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ◎「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	1	2			◎学習と記憶に関する基礎的知識を理解する。 ◎感情と意欲に関する基礎的知識を理解する。 ◎自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的知識を理解する。
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	1	2			◎骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。◎神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ◎眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
II 生活支援技術の講義・演習		(50～55時間程度)					
	(4) 生活と家事	5	1	4	0	◎生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ◎家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ◎家事援助とは何かについて具体的に理解する。	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	5	1	4	0	◎安心して快適な生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ◎住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ◎高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を理解する意味や視点を学ぶ。	
	(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎整容の必要性と、整容に関連するところとからだのしくみを理解する。 ◎利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎移動・移乗の必要性と移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する。 ◎利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ◎心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する。 ◎利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。 ◎心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する。 ◎利用者本人の力を活かし、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。 ◎心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。 ◎利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介助をおこなうための技術を身につける。 ◎心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	1	1	5	◎睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを理解する。 ◎心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける。 ◎心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。	
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	1	2	0	◎終末期のとらえ方を学ぶ。 ◎終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 ◎死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。	
III 生活支援技術演習		(10～12時間程度)					
	(13) 介護過程の基礎的理解	5			5	◎介護過程の目的と意義について理解する。 ◎介護過程の展開プロセスについて理解する。 ◎チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(14) 総合生活支援技術演習	5			5		◎事例を通じて、利用者のこころとからだの方が発揮できない要因を分析する。 ◎事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する。 ◎事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する。 ◎演習時間内に実技評価を行う。
10	振り返り	(指導目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認をおこなうとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。					
	(1) 振り返り	3			3		◎本研修を振り返り、介護職に求められるもの、介護職が大切にすべき視点を考える。
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1			1		◎継続的な研修(OJT、Off-JT)の必要性を理解する。